

ナシ「^{かんた}甘太」の栽培特性と普及に向けた取組

～高糖度で果肉障害果の発生が少ない晩生ナシ～

原 良将（豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【令和4年3月31日掲載】

【要約】

ナシ「甘太」は既存品種の「新高」とほぼ同時期（10月上旬）に収穫できる品種であり、「新高」で問題となっている果肉障害果の発生が少ないとされている。豊田市猿投地区で袋かけの試験栽培を行った結果、一重袋を使用すると果面にまだら状にサビが発生し、外観が優れなかったが、遮光率の高い二重袋を使用すると果実全面にサビが発生し、外観の仕上がりが良くなった。今後は、無袋栽培の可否、使用する果実袋の選定、収穫適期の把握が課題である。

1 はじめに

J Aあいち豊田梨部会（部会員数43名、面積27ha）では、「愛甘水」、「あけみず」、「幸水」、「豊水」、「あきづき」、「新高」、「欽月」、「愛宕」の8品種が共選品種になっている。その内、「新高」は夏場の高温などにより果肉が水浸状になる障害果が発生することがあり、特に令和元年は発生が多かったため、出荷量の低下が問題となった。そのため、果肉障害果の発生が少なく、「新高」と同時期に収穫できる品種が望まれている。「甘太」は、収穫時期が「新高」と近いとされており、管内産地で注目されている。栽培を開始して間もないため、不明な点もあるが、管内産地での栽培状況から得られた知見を紹介する。

2 品種の特徴

「甘太」は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門が開発した晩生品種で、樹勢が強く、花芽の着生も安定しており、高糖度で食味が良く、かつ栽培が容易で豊産性も高い。同じく晩生品種である既存の「新高」と比較すると、同時期あるいはやや遅い時期に収穫できるとされている。

また、近年の消費者嗜好では、果肉が柔らかく、酸味が少なく甘味の強いナシが好まれる傾向がある。「甘太」は「新高」より果肉が柔らかく、糖度が高いため、食味の面でも優れている。

「甘太」は、晩生で収量性が優れる「王秋」に、中晩生で食味が優れる「あきづき」を交配して育成された品種である。重さ550g程度の円～円楕円形の果実で、果面にサビと呼ばれる褐色の斑点が多く発生することが特徴である。

ナシの栽培では、病虫害防除や傷の防止、果実の外観向上のために、特に中晩生品種では果実袋が用いられている。産地では、果実の大きさや外観の仕上がり具合などの違いによって品種ごとに果実袋を選定している。また、「甘太」は青ナシ品種とされており、愛知県では青ナシ品種よりも赤ナシ品種の方が消費者からの人気が高いとされている。そのため、果実の外観を考慮に入れて果実袋の選定を行う必要がある。

3 現地栽培により得られた知見

(1) 収穫時期

令和2年、令和3年どちらも「甘太」果実の調査日は、「新高」収穫開始から約10日後であった。しかし、共選品目となっている既存の品種と果皮色が違うこと、果面にサビが発生し果皮色がわかりづらいことから、生産者からは収穫適期の判断が難しいという意見が挙げられた。

(2) 果実袋試験

「甘太」に適した果実袋を選定するため、異なる果実袋を使用して調査を行った。使用した果実袋の種類は表1のとおりである。

令和2年に、産地の晩生ナシで主に使用されている遮光率の高い二重の果実袋①、②、③を用いて調査を行い、令和3年は遮光率の低い一重の果実袋④、遮光率の高い一重の果実袋⑤、果実袋を使用せず無袋で栽培したものをそれぞれ比較調査した。



写真1 袋かけされた「甘太」

表1 使用した果実袋

果実袋	外袋	内袋	区分	遮光率	実施年度
				%	
果実袋①	印字紙	赤色	二重袋	97	令和2年
果実袋②	茶色	赤色	二重袋	75	令和2年
果実袋③	白色	黒色	二重袋	99	令和2年
果実袋④	白色	—	一重袋	25	令和3年
果実袋⑤	白色	—	一重袋	90	令和3年

遮光率は果実袋メーカーから聞き取り

令和2年の調査果実は、写真2のような外観となった。いずれの果実も果実全面に均一にサビが発生し、赤ナシのような見た目となり、外観上問題はなく、食味は優れていた。また、遮光率の高い果実袋③で若干糖度が低い傾向がみられたが、十分な甘味が感じられた。



写真2 「甘太」調査果実（令和2年）
上から果実袋①、果実袋②、果実袋③

表2 糖度調査結果（令和2年）

果実袋	糖度(Brix)
果実袋①	13.5
果実袋②	14.0
果実袋③	13.3

令和3年の調査果実は、写真3のような外観となった。は、いずれの果実袋も果面にサビがまだらに入り、外観が優れなかったが、無袋のものは果実の全面にサビが入り、赤ナシのような外観となった。



写真3 「甘太」調査果実（令和3年）
上から無袋、果実袋④、果実袋⑤

表3 糖度調査結果（令和3年）

果実袋	糖度(Brix)
無袋	13.0
果実袋④	12.0
果実袋⑤	12.0

4 今後の取組

令和2、3年の調査結果から、二重袋で遮光率の高い果実袋を使用すると、外観がきれいに仕上がるが、一重袋の果実袋を使用すると、遮光率に関わらずサビがまだらに入り、外観が劣るという結果となった。

現状では、外観の仕上がりが良好であった遮光率の高い二重袋の中から、コスト等を考慮しつつ最適な果実袋を選択するのがよいと考えられた。栽培農家からは、果実袋をかける作業は時間と手間がかかるため、無袋栽培が可能かどうかの検討が必要であるという意見があり、今後は高遮光率の二重袋と無袋栽培について検討する。

また、「甘太」を無袋や遮光率の高い二重袋を用いて栽培すると、果面がサビで覆われるため、地色を見て収穫時期を判断することが困難であった。そのため、今後は収穫適期の判断基準を確立する必要がある。